

和樣手本大成

自第五卷
至第七卷

別書誌
合冊



301-7 *5



1200501367189

301-7 *6



1200501367190

301-7 *7



1200501367191



始



藤原佐理筋切

301-7



1200501367189





藤原佐理筋切



古今和歌集序

夫和歌者託其根於心地發其華
於詞林者也人之在世不能無為

思慮易遷氣樂相變感生於志

詠形於言是以逸者其詞樂
怨者其吟悲可以述懷可以發
情動天地感鬼神化人倫和夫
婦莫宜於和歌之有六義一
曰風二曰賦三曰比四曰興五曰雅

六曰頌若夫春鶯之轉花中
秋蟬之鳴樹上雖無曲折各
發歌謠物皆有之自然之理
也然而神世古代時質人淳情
欲無分味奇未作遠于素

樂者道し再唱^唱乎送^送乎人丸既
後倭^倭奇不在斯或于四正喜
五年歲次丑^丑正月十五日^日信^信
等^等解^解

やまどうたを^たじとの^地ころを^たは
志^下よりみ^よれは^まり^なら^れ
さう^まの^なら^にあ^らひ^とよ^わせ^し
あ^らま^れさ^れれ^るる^にお^もい^に
と^さみ^らさ^れさ^くれ^のよ^つな^り

いひしるさるるはあまのこにたのむに
いをみるすまかはづきゝるゝ
けきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をよるさるるけりちるさるるしゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みえねわゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まをよるさるるけりちるさるるしゝ
はらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちるはさるるけりちるさるるしゝ
うたあめらちるけりちるさるるしゝ
ちるはさるるけりちるさるるしゝ
ちるはさるるけりちるさるるしゝ

橋

古今味詩集巻第一

春上

空をよめるのまゝに

在原之方

このうらたにまははさるるよ一年を
あまのやうなまの年とわいあま

あまのやうなまの年とわいあま

紅舞

うらたにまははさるるよ一年を
あまのやうなまの年とわいあま

題不知

讀人あま

あまのやうなまの年とわいあま
あまのやうなまの年とわいあま
あまのやうなまの年とわいあま
あまのやうなまの年とわいあま



ゆりのうらにしろはまけり
まにゆりなまきいり

是不知

後人云

ゆりのうらにしろはまけり
まにゆりなまきいり
ゆりの樹をふりて

是は後人

をゆりなまきいり

ゆりのうらにしろはまけり

是不知

後人云

ゆりのうらにしろはまけり
まにゆりなまきいり

あつちのいさぎふ
まにゆりなまきいり

二条のいさぎふのまきいり
まにゆりなまきいり
はがしやう

さいはらうかしのらゆりの
わらうわらうよよをけらる

又室康秀

あらうのらるわらにあらう花たは
あらうのゆらとたらわらわら
雲のわらうらるも 雲
あらうら本目と春のゆら多たら
たらとてものららららわら

春のらららに ね原さる

あらうわららはなわ ねららららら

らららららららららららら

春あらはらぬのらららら

あらうあらう人はらららららら
わらうあらはあららららら

寛平御時后宮のそらら

源當純

たまりつせうとららるゝにやわのひまきりた
うらつらうなきにやはりのきうら花

紀友則

はなのちをうせぬよわにたらくら
うしひもせうらあきくくにか

大江ふ里

うしひもれたらうよわいつらきりたは

えうらうらうらうらうらうらうら

在原棟梁

はうちをてんかきしにやほぬらてらに
しほりからゆよらうらうらうら

題不名

後人不知

あうらうらうらうらうらうらうら
なうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら

かきつきのふゆのきわむらさき
まいつきのあやうなつこころ
ふゆはまゆみのひまわり
ももきわむらさき

紀勢

志保きゆきおしづ春早田んぼ
ぬめりせらふらは美菜あん天々

仁和の帝ハ親とおもくあそび

阿子人ノ美菜はあつた

まふんたまもはのこころわつた

わつたもこころにちいさく

高たてまうれと御事あつた

本會

うれかのわつたつた代は物さ
あやうなつこころのけい

おん

お原新平

まふんたまもはのこころ

古今味亭集巻第二

春下

題ふ

清く

春下 しかんたるに九はまはせり
花うららばはもやひりふゆ

まは

まはと、あふらりし志とあふりて
らばなるをとおくはれり
まはわさるるやめたるはせり
まはつよのなほはてぬか
このまはにまはし
まはまはるるは

うらまのこのまはなたるけくら花
さくらもあつまにうらまのま

僧正遍照 續々

惟高親 号小野守

けくらまなちしはくろくし子
あつまのまのまのま

雲林院の櫻れちまのま

取均法師

あつまのまのまのまのま
あつまのまのまのまのま

あつまのまのまのまのま

あつまのまのまのまのま

あつまのまのまのまのま
あつまのまのまのまのま

あつまのまのまのまのま

しん年ほくわくきしといはせし

すあなうし 遊名

しん年ほくわくきしといはせし
秋まあるまはくしんてん

指し火 都良香

しん年ほくわくきしといはせし
秋まあるまはくしんてん

子万文 子理

しん年ほくわくきしといはせし
秋まあるまはくしんてん

すあなうし

しん年ほくわくきしといはせし

人の云はくしんてん

遊名

まじりて、此のありやとて、
しるふ。いふや、しるや、
くちや

神郡晩秋先生臨

筋切

古今和歌集序

夫和歌者託其根於心地發其華
於詞林者也人之在世不能無為
思慮易遷哀樂相變感生於志

詠形於言是以逸者其詞樂
怨者其吟悲可以述懷可以發
憤動天地感鬼神化人倫和夫
婦莫宜於和歌一有六義一
曰風二曰賦三曰比四曰興五曰雅

すめみたり

滋善

ちるるはななり かよひちたよりあは
秋あふりあひこるるてら

於よ火

都良善

たう彩るるるる上みまわたまふらけ
けまあむけりけりけりけりけり

承均法師

あうらちう花のとこりは、涼なり
ゆきそりそりわく、ちりうてまはし

梅むのちまけさなよん

高性法師

あしあらしそのもちは、あし
あしあしあしりくうらこせ

筋		切	
昭和九年十二月八日 印刷 昭和九年十二月十二日 発行			
和様手本大成 第五卷			
編輯兼 發行者	下 中 編 三 郎	東京日本印刷製版	
印刷者	關 口 一 男	東京日本印刷製版	
發行所	平 凡 社	東京日本印刷製版	
印刷所	共同印刷株式會社	東京小石川久慈町	

(本製筆手)

終